



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日		イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足		オペ期日	オペスタート	
4/6 (月)	+ 900	▲ 5,700	▲ 4,800	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 +1,300	国債買入 +4,100	日: 日銀支店長会議 : さくらレポート(4月)
4/7 (火)	ト	+ 5,000	+ 5,000				
4/8 (水)	ト	▲ 6,000	▲ 6,000	国債発行 (30年)			日: 貿易収支(2月) 米: FOMC議事要旨(3月17日・18日開催分) 欧: ユーロ圏PPI(2月)
4/9 (木)	ト	+ 5,000	+ 5,000				米: GDP(4Q) : PCE価格指数(2月)
4/10 (金)	ト	▲ 18,000	▲ 18,000	国債発行 (5年) 国庫短期証券発行償還 (6M)			米: CPI(3月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、主に各種財政資金の支払いにより前営業日対比3兆2,300億円増加の458兆5,700億円から始まった。その後、交付税の払いがあったものの、税・保険揚げ、国債発行等の要因により漸減し、3日は456兆8,400億円(速報)で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.726%から始まった。その後も概ね横ばいで推移した。

ターム物は期明けのため活況であったものの、4月の日銀金融政策決定会合での利上げを警戒し、3W~1Mの期間での引き合いが中心であった。1W~3W物0.720%~0.900%のレンジ、1M~3M物0.810%~1.100%のレンジで出合が見られた。来週の予定は、国内では6日に日銀支店長会議の開催、8日に貿易収支(2月)の公表、海外では8日にFOMC議事要旨(3月17日・18日開催分)、ユーロ圏PPI(2月)、9日に米GDP(4Q)の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.729
1M	0.83 ~ 0.95
2M	0.95 ~ 1.10
3M	1.00 ~ 1.15
6M	1.10 ~ 1.30

<レポ>

足許GCは、取引が月末過ぎとなる30日の前場は0.72%から出合始めたが、後場にかけてレートが上昇し、0.75%近辺まで出合があった。31日以降は、0.75%近辺での出合となった。買入れオペや短国の発行等の影響はほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年470~482回債、5年155~183回債、10年356~371、378~380回債、20年110~130回債、30年86~89回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70台
CP 3M	1.0 ~ 1.2

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,330億円で、週間償還額の5,465億円を上回った。発行残高は、先週末時点の24兆4,485億円から、4月2日時点で21兆3,166億円へと減少した。発行市場では、石油製品・卸売業・食料品をはじめとする幅広い業種で、期明けの調達再開に伴う大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.80%台から1.0%台程度、3ヶ月物で1.0%台から1.1%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約6,800億円となっている。発行市場は、期明けの調達再開が本格化し、引き続き発行超が見込まれる。発行レートは、短観で製造業の景況感に改善が見られたことに加え、日本銀行が今後も利上げを続けていく姿勢を改めて示したことから、水準を探る展開が続くだろう。

<TDB>

3日の3M(第1372回債)の入札は、最高落札利回り0.8823%(前回債0.8561%)、平均落札利回り0.8738%(前回債0.8420%)となった。来週の入札は9日に6M、10日に3Mが予定されている。